

● 指導の工夫

「道徳授業のさか道」を活用した授業づくり

授業づくり部会では、

- 1 全員が授業に参加できる授業
- 2 一人一人が道徳の学習を、自分自身との関わりの中で考えられる授業を目指し、次の指導の工夫・改善にかかわる研究を進めた。

発問の工夫やつまずきに対する指導方法の工夫を推進するにあたり、道徳教育推進教師が中心となってモデルを作成した。その結果、全教師が生徒の実態や授業の進め方などに共通認識をもつことができた。

指導の工夫

ステップ1 発問の工夫 → 「のさか発問モデル」の活用

ア テーマやねらいを明示し、発問を工夫することで、全員が参加できるようにする。

イ 展開後半の「道徳的価値を再吟味する」際の発問を工夫し、自分自身との関わりの中で考えられるようにする。

ステップ2 生徒の考えや振り返りの想定と指導方法の工夫 → 「のさか評価モデル」の活用

ア 評価の視点とそれに対応するねらいに迫る生徒の振り返り記述例を指導に生かし、指導と評価の一体化を図る。

ステップ3 生徒のつまずきの想定と指導方法の工夫 → 「のさかUDモデル」の活用

ア 各段階における生徒のつまずきとそれに対する手立てを考え、全員が参加できるようにする。

イ プロセスの進め方に留意し、思考の連続性が保たれる展開をすることで自分自身との関わりの中で考えられるようにする。

指導の工夫・改善を全教員で推進していくにあたり、発問・評価・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導の工夫について、それぞれ「のさか発問モデル」・「のさか評価モデル」・「のさかUDモデル」としてまとめた。全職員で共有することを通して誰もがユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導の工夫を盛り込んだ指導案作成ができるシステム（授業づくりシート「道徳授業のさか道」）を整えた。

図2 「道徳授業のさか道」を用いた授業づくりの流れ

